

# びーのびーの通信

# あゆみ



START  
↑  
号

2000.4

2003.1

のびのびママ 2003.4

2007.9

## 通信ができるまで

- 打合せ  
次号の内容について話し合いをします。翌月の予定をカレンダーに載せるため、この打合せで予定を勝手に決めてしまう事も…(‘▽’)
- 原稿を依頼  
記事の内容により、原稿を書いてくれる人に依頼します。この原稿が締め切りまでに戻ってくる確率は編集長の統計によると38%。締切を守らないワースト1は某事務局長。(ー一#)
- みんなで校正  
ようやく回収した原稿を編集し校正となります。誤字脱字がないか、不適切な表現はないか、目を皿にしてじっくり…のつもりが、印刷後に間違えが見つかるという事がしばしば。(‘皿’)
- イラスト  
出来上がった原紙にイラストをいれます。スタッフだけでなく、会員さんにも描いてもらいます。
- 印刷  
ようやく印刷です。ここまでくればあと一息。でも原稿の写真がうまく印刷できなかったり、原稿を左右逆に印刷してしまったり…(‘▽’;) そういえば印刷には学生ボランティアのS君がよく来てくれたなあ。その彼も今は某店の店長さんです。
- 発送  
小机にある桶の木学園の先生と生徒さん、それにスタッフやたまたまひろばに来ていたママ達を巻き込み、びーのびーのを応援して下さる方に向けて毎月200通以上の通信を発送します。
- 発送といえば…  
発送の時に使っている封筒ですが、なんとびーのびーの開設以来8年間ずっと東京中野区にあるヤマダ巧藝印刷さんから無償でいただいているものなんです。本当にありがとうございます！
- そして…  
ようやく出来上がった通信、スタッフが手分けして持って行き、近隣の病院や公共施設などに置かせていただいています。

ココの黒帯の所に毎月季節のひと言が入っているんですよ。知ってました？

(有) ママが工藝印刷の山田さん  
創刊100号おめでとうございます。多くの出会い・多くの笑顔の集まる憩いの場所はとても大きな存在です。不安も多い子育てライフをこれからもサポートして下さい。

桶の木学園の藤原先生  
通信100号おめでとうございます！月の終わりに数名の生徒と一緒に発送作業をお手伝いさせて頂いていただいている桶の木学園です。びーのびーのさんの温かい雰囲気いつも勇気づけられています。今後ともよろしくお願いたします

**1** びーのびーの通信登場!!  
記念すべき第1号。港北区役所の前で「怪しい者ではありませんので…」と言いながら子連れママに配りました。「後にも先にもあんな勇気あることをしたのは初めてだった」(スタッフK談)。しかしそのかいあって、通信を手にとったママが会員になり、その後スタッフになってくれました。(‘o’)

初めての全面リニューアル  
この号はリニューアルしたと共に、念願だった行政からの委託金が支払われる事となった忘れられない号です。公的資金が入り、会費が下がるまでの経緯を詳しく説明しました。

33

会員さんも作っていました  
会員さんが中心となって作る「のびのびママ」、通称ママ新聞が初めて発行されました。編集会議では「あれも載せたい!これも…」とワイワイやっていた「いざ、原稿!」となると中々いい文章が見つからない。真夜中に必死で原稿を書いていたことを思い出します。(眠たかったな〜)メンバーの転勤、職場復帰等様々な理由で「のびのびママ」は5号で休止となりましたが、今読み返しても、子育て期の疑問や夢がいっぱい詰まった懐かしい紙面です。

MAMA

そして今…  
菊名西口商店街の空き店舗にひろばを開設したのが2000年。それから大倉山にもひろばができたり、横浜市からの委託事業「どろっぶ」がオープンしたり…。その度に通信も少しずつ形を変えてきました。実は今でも時々変わっているのです。

87

100号おめでとうございます! 毎回締切制限のある中、各自の時間を作成にそそぎ、協力して仕上げていくのは大変だったでしょう。びーのびーのを懐かしく思い出しながら、毎回読ませていただいております。今後とも応援しております。

通信を書店などに持って行ってくれる元会員様さん  
びーのびーの通信を一緒に作ってくれる人、大募集!  
んしゅうちよ!  
びーのびーのロゴをデザインしてくれた青木さん  
広報紙100号おめでとうございます。悩める母の一人として参加させていただき、模索しながら皆で創刊号をつくった事が、つい昨日の事の様です。びーのびーのの葉っぱは、どんん伸びてあちこちにたくさん種類を撒いたのですね。これからも応援しています



TSUSHIMU NO AYUMI